

山口市・吉南医師会女性医師部会合同研修会&懇親会

坂本耳鼻咽喉科医院 竹本 成子

あらっと気がつくともう3月、花粉症の真っ盛りとなりました。そんな時期、今更ではごさいます、山口市と吉南医師会の女性医師部会の合同研修会&懇親会が1月31日に湯田のまさらっぶで開催されましたので、ご報告申し上げます。

まず、野瀬橋子部会長から開会のご挨拶があり、次に吉野文雄医師会長からもご挨拶をいただきました。

研修会では、小郡第一総合病院内科の田中裕子先生から「C型肝炎治療」、NHK山口放送局局長の坂井律子さんから「出生前診断～海外と日本の取材から」、と題してのご講演をいただきました。

田中先生には、C型肝炎の治療について、その変遷と現状について専門外の者にもわかりやすくご呈示いただきました。特に、HCVを根絶しても65歳以上では肝細胞癌のリスクは減少しないことからより若年での早期の発見、治療が望ましいこと、またHCVを根絶した後、肝癌のリスクは減少してもなくなりはないことから、治癒後の経過観察の重要性に付いて警鐘がございました。

坂井律子さんは、NHKのプロデューサーとして福祉・医療関係の番組制作に携わってこられた方です。このたびは、non-invasive prenatal genetic testing (NIPT) について、日

本医師会雑誌（平成26年9月号）に掲載された内容に追加した形で、フランスでの取材のお話しをいただきました。フランスでの取材は、既にかの地で全妊婦におこなわれている出生前診断（母体血清マーカーなど）に加えて、NIPTでのスクリーニングの追加が決定された時期になされたそうです。一部の医療従事者やダウン症支援団体からは反対の意見もあるようですが、少数派としておいやられ、その意見は反映されていないようです。実際、フランスではダウン症児の出生は減少しており、そのことが障害に対する理解を薄くさせ、専門家の減少や、生まれてきたことが失敗であるかの様な考えを生じさせることが危惧されるとのことでした。この取材の際、坂井さんは休暇を取って自費での渡仏、取材だったそうです。その行動力に敬服いたしました。

現在、日本では限定的に行われているNIPTですが、陽性の判定を受けた多くの場合で妊娠の中断が選択されている状況です。NIPTが命の間引きに繋がりがかねない状況において、その運用には、妊婦のニーズの反映や、排斥につながらないように障害の理解のために医療従事者、専門医によるもっと広く深い議論の必要があり、それを伝えるマスメディアの役割も重要とのご発言をいただきました。

唐突ですが、大河ドラマ「花燃ゆ」の宣伝も



なされましたので付記いたします。

最後に、山口県健康福祉部健康増進課の新課長である、國光文乃先生から厚生労働省での女性医師の活躍に向けた取り組みについての情報提供がありました。今後、都道府県レベルでの女性医師への支援制度の充実につながるものと考えられますが、逆差別とならないよう配慮が必要であろうとのご発言がありました。

その後は楽しい懇親会にうつり、恒例となり

ました齋藤前会長の差し入れワイン（いつもありがとうございます）とともに、おいしいお食事を楽しむこととなりました。

女性医師部会は細々ながらも地道に活動を続けております。まだ未参加の女性医師の方々、講演会にご興味をもたれた男性医師の方々、是非一度ご参加くださいますよう、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

乱文、遅筆ご容赦のほどお願いいたします。

